

相談支援事業所 相談に関する報告（平成31年4月～令和2年1月）

課題と感じていること	相談対応していて見えてきたこと
ライフステージを通して継続した支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親が育て方、関わり方が分からない。親自身にも支援が必要と思われるが、情報を伝えてもなかなか支援に繋がらない。親自身が他者との交流を避ける傾向にあるケースなど、子育てサロンやイベントにも出てこられない。</li> <li>・利用者側や支援者側にも制度のことなど情報発信していても、意識化していない時にはキャッチされない。</li> <li>・入所中の児童においては、学校卒業後の居所を探すことが最優先となるため、本人の世帯事情や特性と細部に渡るマッチングができていないことがあり、卒業後困るケースがある。</li> <li>・学校、児相、入所施設、通所施設、グループホーム、相談支援等の早い段階からの連携が必要と思われる。早期から各機関が情報共有していくことで、支援の方向性が明確となり役割分担もできる。</li> </ul>



ライフステージを繋ぐ関係機関との意見交換、情報共有、丁寧なコミュニケーションが必要・・・①

課題と感じていること	相談対応していて見えてきたこと
障がい児・者と親世代で生活している世帯の孤立や多問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の単身世帯だと地域包括支援センター等に繋がりがやすいが、子が同一世帯でいると問題が起きてからしか把握されないことも多い。親世代に介護が必要になって初めて認識される障がい者や孤立状態の子がいるケースもある。</li> <li>・不登校やひきこもり＝精神障がいとは限らず、それぞれの支援者間で役割分担など協力体制を作る必要がある。</li> <li>・障がい種別に関わらず、福祉や介護のサービスを利用することに抵抗感があり、サービス利用を勧めても支援を受け入れてもらえないケースもある。</li> </ul>



世帯員それぞれの関係機関との意見交換、情報共有が必要・・・②

①、②から

**【課題に対する提案】**  
**～多問題のケースを関係者が共有する・理解する場が必要～**  
 多問題のケースが多くあるので、障がいだけでなく児童から高齢者まで世代を区切らず、また保健、医療等も含めて、情報共有したり、うまく支援が繋がったケースを学んだりすることで、地域で困るケースにならないように予防的な関わりを持つなどの取り組みができれば良い。  
 今、地域で起きているさまざまなケースに関わる現場レベルの関係者・支援者の人たちと、それぞれの立場から意見交換をする場を持ち、役割や情報の共有を図り、それぞれができること・できないこともお互いに理解する機会を作りたい。障がい分野や行政の縦割り、法人や事業所の壁、フォーマル・インフォーマルも超えた多岐に渡る意見交換の場とし、次に繋がる連携、取り組みを構築できると良い。